

ゴミ焼却熱の活用と利活用を学ぶ分科会

代表 村田 泰志



余熱利用施設「千年の湯」

ゴミ焼却熱の活用と利活用を学ぶ分科会では、淡路島におけるゴミ焼却や資源ゴミのリサイクルについて調査研究し、第9期の調査結果を踏まえたゴミ焼却熱の“利活用”面を考える活動をしています。

淡路島のゴミ処理場やリサイクルの現状を調査した結果、約10年後に起こるであろうゴミ焼却施設の一本化に伴い、ゴミ処理場を新設する必要があるという結果に至りました。新設する施設のゴミ焼却で発生した熱を利用し、発電や温水プール等の観光施設を作るアイデアについて、先進的に取り組んでいる施設を見学し、調査研究していきます。

淡路島コミュニティづくり分科会

代表 中舎 義博

淡路島コミュニティづくり分科会では、淡路島の移住に関する状況を知るとともに、移住相談や関連イベントに携わっている方や移住者の方々と新たな“つながりづくり”を目指して活動しています。

11月には、日頃から移住者との接点を持っているNPO法人の代表の方々と移住者を囲んで、移住した感想や抱える問題について伺いました。また、受け入れ側の淡路島の行政や島民の協力のあり方についても話し合いました。我々に何が出来るか、何が必要かということを考え、今後の活動につなげていきます。



移住勉強会

全体の活動

全体会の開催

令和3年1月23日(土)に、兵庫県テレビ会議システムを利用した第4回全体会を開催し、今後のオンライン会議の活用について説明しました。また、淡路島に本社機能を移転予定の株式会社パソナグループより、今後の淡路島の魅力と可能性についてご講演いただきました。



第4回全体会講演の様子

淡路くにうみ夢フォーラムの開催

令和3年3月13日(土)に、令和2年度淡路くにうみ夢フォーラムを開催し、「未来の淡路島を想像しよう!」をテーマに未来新聞を作成しました。『淡路島で育つ』『淡路島に迎える』『淡路島を守る』『淡路島を活かす』の4つのテーマ毎に分かれ、30年後の2050年の淡路島について考えました。最後には、振り返りとともに思い描く未来へ向けて動き出すために、一人一人が『明日への決意』を固めました。



淡路くにうみ夢フォーラムの様子

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～

淡路地域ビジョン委員会Facebook

検索



発行／淡路地域ビジョン委員会

事務局 兵庫県淡路県民局交流渦潮室交流渦潮課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5 TEL.0799-26-2125 FAX.0799-24-6934
E-mail awaijuzu@pref.hyogo.lg.jp

02淡路® 2-009A4

第10期淡路地域ビジョン委員会

令和2年度 活動の記録

淡路地域ビジョン委員会では、「環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島へ”～」という目標を実現するために、4つの実践目標を掲げ、住民自らが淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

実践目標1

誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

実践目標2

個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

実践目標3

自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

実践目標4

経済、社会、環境が調和し命をつなぐ島づくり

写真提供：(一社)淡路島観光協会

「種を蒔く」

第10期ビジョン委員会は、コロナ禍の令和2年6月に発足しました。

30代から80代までの男性41名、女性12名の総勢53名です。感染防止対策を図りながら、地域ビジョンを実現し、淡路島をより良くしたいと議論を重ね、10月に9つの分科会がスタートしました。

新地域ビジョンの検討が進む中、3月の夢フォーラムでは2050年を想定した未来新聞の作成を通じて、多くの夢と課題が共有されました。

新型コロナウイルスにより日本人の価値観も大きく変わろうとしています。集中から分散、都市圏から地方への移住希望者が増えており、淡路島も注目されています。時代の変化も踏まえつつ、来年度に向けて「種を蒔く」一年となりました。



第10期淡路地域ビジョン委員会 委員長 山本 益嗣

分科会の活動

第10期淡路地域ビジョン委員会では、
9つの分科会に分かれて活動しています。

防災分科会

代表 森崎 義彦



意見交換会

防災分科会では、潜在する「ひょうご防災リーダー・防災士の証」を持つサポーターに、コロナ禍での自助活動等の面で活躍してほしいという思いから、彼らの掘り起こしを目標に活動しています。

防災と聞けば避難所が思い浮かびますが、コロナ禍での三密(密閉・密集・密接)を避けるために、段ボールベッド・テントの十分な備えや、自助では免疫力アップのための健康管理など、以前の避難所と比べ様変わりしています。現場の実情を知らずしては動けないため、令和2年度では淡路県民局と島内3市の防災担当者との意見交換会を行いました。今後は各委員の意見から指針をまとめ、実行段階へと移していきます。

淡路五山と歴史巡り分科会

代表 堀井 裕右

淡路五山と歴史巡り分科会では、古くから“山岳信仰”の山として知られる淡路五山(諭鶴羽山、先山、柏原山、東山寺、常隆寺山)を中心に、淡路島の知られざる歴史を掘り起こすとともに、それを新たな観光資源の開発に繋げることを目標に活動しています。

11月には先山(標高448M)、令和3年1月には淡路島最高峰の諭鶴羽山(標高608M)での古道ウォークに挑戦しました。

先山は古事記では日本で一番最初に出来た山とされ、諭鶴羽山は権現信仰の地であります。修験者も歩いたであろう古道を灘側から登頂しました。古道には古代の交通路としての歴史が刻まれています。3月には柏原山に挑みます。



諭鶴羽山登山

健康・福祉分科会

代表 顕谷 恭年



卓球バレー



園芸療法

健康・福祉分科会では、誰もが豊かで充実した人生を目指して、「障がい者スポーツ(卓球バレー)と園芸療法」の2本柱を目標に掲げ活動しています。

人は身体を動かしたい、自由に感情を出したい、皆と喜びを共有したいものであり、誰もが余暇を楽しみ生き甲斐のある生活をしたいと願っています。また、一人ではできないことも支援者

の力を借りればできることは多くあります。障がい者スポーツや園芸を用いた活動を通じて、高齢者や障がい者が多くの人と出会い、経験を積み、視野を広げ充実した時間を皆で一緒に作り出せればという考えのもと、今後も活動していきます。

農林水産分科会

代表 堀田 修司

農林水産分科会では、淡路島の竹林を保全することと、淡路島の農産物の開発やPRに向けて活動しています。

まずは令和3年1月初めに、淡路島における竹林保全の活動について元ビジョン委員からお話を伺い、淡路島の竹林の現状について共有しました。また、伊弉諾神宮の農林水産祭において「竹林利活用協議会」のブースをお借りし、来場者を対象に竹林保全の聞き取り調査を実施しました。テント前で竹林のポスターを熱心に見ている方々にご協力いただきました。

今後は、淡路島の竹林の現状をPRするためのポスターを製作してイベント等で展示していく予定です。



竹製品の展示販売
竹細工の実演

農林水産祭

SDGs推進分科会

代表 坂本 尚志



SDGsロゴ

SDGs推進分科会では、淡路島でSDGsに取り組む人たちの活動をPRし、ネットワークをつくることにより、SDGsについての活動を盛り上げ認知度を高めることを目標に活動しています。

SDGsに関する講演会や勉強会に参加するほか、南あわじ市がノルウェー・ボーダー市と友好連携協定を締結して国際交流を推進していることから、この国際交流の中で子供たちがSDGsを学ぶ場の拡大につながるような活動をしていきます。

SDGsとは、持続可能な開発目標の略称であり、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すために国連で定められた、国際目標です。

淡路島の自然の豊かさを学ぶ分科会

代表 行徳 昌則

淡路島の自然の豊かさを学ぶ分科会では、「淡路島の豊かな自然をもっと知りたい」「島内の若者と一緒に何かやりたい」という思いのもとに活動しています。

今年度は、まず島内大学との連携を図るために12月に兵庫県立淡路景観園芸学校を訪問し、自然環境の先生のご案内のもと、大学キャンパス内の見学会を行いました。今後は自然環境の先生の講義を聞きながら、実際のフィールドで観察する機会を作り、連携する大学生たちとも一緒に活動していきます。



淡路景観園芸学校見学

鳴門海峡の渦潮普及啓発分科会

代表 関口 功



3海峡クリーンアップ大作戦



渦潮出前講座(第9期)

鳴門海峡の渦潮普及啓発分科会では、第9期から引き続き、渦潮のメカニズムや自然現象の面白さを知ってもらうことで、鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた活動を行っています。

来年度は、春の花みどりフェア「渦の魅力フォーラム」に参加するほか、3回目となる3海峡クリーンアップ大作戦にも参加します。また、「淡路国生みマラソン」会場や本四高速道路淡路サービスエリアに「渦潮世界遺産PR隊」を派遣するとともに、淡路島の小学校高学年を対象に、渦潮のメカニズムなどを学ぶ出前教室を実施していきます。